

下大島村近世村方文書 解題

1. 請求番号

P22091

2. 文書群名

下大島村近世村方文書

3. 伝存地

高崎市下大島町

4. 資料形式

古文書、デジタル画像

5. 数量

9点

6. 年代

寛政11年(1799)～慶応2年(1866)

7. 地名

碓氷郡下大島村／碓氷郡川間村大字下大島(明治22年4月・1889～)
／碓氷郡八幡村大字下大島(明治22年12月～)／高崎市下大島町(昭和30年・1955～)

8. 管轄

幕府領／吉井藩領(宝永6年・1709～)／高崎藩領(安永9年・1780～)／高崎県(明治4年・1871～)／群馬県(明治4年～)／熊谷県(明治6年・1873～)／群馬県(明治9年・1876～)

9. 伝来

高崎市市史編さん室が平成6年(1994)9月、平成7年(1995)1月に県内の同一古書店で購入したもの。

10. 地域の概要

下大島村(現、高崎市下大島町)は、高崎市役所より西北西6kmほどの距離、榛名山の東南麓に位置する低地で、南側は若田村・剣崎村の丘陵地に接し、北側は町屋村をはさんで烏川が流れる。寛政11年(1799)「下大島村明細書上帳写」(No.2)によれば、村域は東西735間(約1,336m)・南北186間(約338m)程であり東西に細長い形をしている。

『上野国郡村誌』によれば、「本村ハ古時当郡ニ属シ上大島村町屋村ト壱村タリ、中古ニ至リ分ツテ三村トナルト云フ」とあり、天正18年(1590)より徳川氏代官支配、宝永6年(1709)より吉井藩領、安永9年(1780)以後は高崎藩領となったとある。

郷帳等に見られる村高は以下の通り(『上野国郷帳集成』)。

- ・寛文8年上野国郷帳：364石2斗2升2合 田方291石 6升 畑方 73石1斗6升2合
- ・元禄14年上野国郷帳：364石2斗2升2合
- ・天保5年上野国郷帳：364石2斗2升2合
- ・旧高旧領取調帳：364石2斗2升2合

なお、上記寛政11年(1799)の「下大島村明細書上帳写」(No.2)によれば田15町3反5畝10歩、畑10町2反3畝29歩、屋敷3町1反1畝7歩。

村内の寺社としては、『上野国郡村誌』によれば吉祥寺、地藏堂、榛名社、社宮司社が確認できる。また、天明2年(1782)の村明細(『新編高崎市史』資料編7・No.11)には観音堂・薬師(いずれも吉祥寺持)の名が見える。吉祥寺は真言宗清浄心院末で揚柳山無量院と号し、寛文2年(1662)に祐伝が開基創建、朱印地はなし。榛名社・社宮司社については、寛政11年の村明細(No.2)に「鎮守両社 満行宮・釈宮司」とあり、神社明細帳には村社石神々社、無格社榛名神社が見

える(『上野国神社明細帳』10)。現在の大嶋神社は、明治41年(1908)に榛名神社を石神社に合祀して成立した(『新編高崎市史』資料編14・社寺)。

助郷は板鼻宿の定助郷。改革組合村では板鼻宿寄場組合に属した。板鼻宿から金古へと抜ける渋川道、高崎から神山宿を通り大戸を経由して信州へと通じる信州道が村内を通る。

下大島村の戸口は『上野国郡村誌』によれば本籍61戸、201人(男105人・女96人)。その他の年代で人口を確認できた範囲でまとめると下表のとおり。

年	戸数	人数	内訳	備考
天明2年(1782)	58	249	男142・女105	村明細(資料編7・No.11) 外に道心・出家各1人
寛政11年(1799)	58	230	男129・女101	村明細(No.2)
天保5年(1834)		181		〔御用留帳〕(No.5)
天保11年(1840)		172	男92・女80	〔御用留帳〕(No.5)
嘉永5年(1852)		174		〔御用留帳〕(No.5)
安政5年(1858)		196	男109・女87	〔御用留帳〕(No.5)
慶應元年(1865)	39	177	男97・女80	宗門人別帳
慶応2年(1866)	39	177	男97・女80	宗門人別帳
慶應3年(1867)	39	181	男99・女82	宗門人別帳
慶應4年(1868)	39	180	男105・女75	宗門人別帳
明治8年(1875)	59	203	男102・女100	戸籍総計
明治9年(1876)	63	201	男105・女96	戸籍総計
明治10年(1877)	64	197	男94・女103	
明治11年(1878)	63	202	男94・女108	戸籍総計

※慶応元年以降は秋本俊夫家文書による。

下大島村は、明治22年(1889)より碓氷郡川間村の大字となり、同年12月からは川間村の改称に伴い碓氷郡八幡村の大字となる。昭和30年(1955)に高崎市へ碓氷郡八幡村が合併し、高崎市下大島町となった。

11. 文書群の特徴

本文書群は、高崎市市史編さん室が県内の同じ古書店で平成6年(1994)9月(No.1~4)・平成7年(1995)1月(No.5~9)の2回にわたり購入した資料である。内容から出所を同じくすると推定され、点数も少ないため、本目録では一つの文書群として扱った。

本文書群は下大島村名主廣瀬家に伝来した文書の一部と考えられ、後述する群馬県立文書館所蔵の2文書群との関わるものと思われる。

本文書群のほかに下大島村関係の史料としては、高崎市史編さん事業において調査しマイクロフィルムにより複製収集を行った秋本善作家文書、市史編さん室で寄贈を受け入れ現在は中央図書館で所蔵している秋本俊夫家文書、天明2年8月「群馬郡下大島村明細書」(『新編高崎市史』資料編7・No.11)がある。また、いずれも下大島村名主廣瀬家の文書の一部と推定される、群馬県立文書館所蔵「中村茂氏収集文書」及び「本間辰一氏収集文書」がある。

12. 検索手段

本目録

13. 関連資料

- ・秋本善作家文書(請求番号M89051)
- ・秋本俊夫家文書(請求番号P22081)
- ・『新編高崎市史』資料編7・No.11 天明2年8月「群馬郡下大島村明細書」
- ・中村茂氏収集文書(群馬県立文書館所蔵)
- ・本間辰一氏収集文書(群馬県立文書館所蔵)

14. 利用上の留意点